潮音寺だより

第 273 号
平成 18 年 7 月

電 話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11
<ホームページ> http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/

浄蓮の滝（伊豆市湯ヶ島）

そう
悩みなさるな
もしかして
あなたの
思い込み
かもしれない

押してだめなら
引いてみる

ゴールが
見えなければ
自分で作る

こだわりという
束縛から
解放されたとき

新たな
道が開けてくる

粋な布施

釈迦牟尼が、前世にシヴィという名の王であったころ、諸々の天人たちの主である帝釈天（インドラ）は、ヴィシュヴァカルマンという変化自在の天人とで、シヴィを試すことにしました。

ヴィシュヴァカルマンは、鳩へと身を変じて王の元へと向かい、インドラも鷹となってこれを追いかけました。シヴィ王は、恐れに震え必死に助けを求めてくる鳩を見て、当然のこと、この可哀想な鳥を保護しました。そこに鷹がやって来て王にこう要求しました。

「王よ、それは私の獲物です。その鳩を私にお渡しなさい。」

シヴィ王は考えた揚げ句、こう決心しました。

「この体には常に老いと病と死がまとわりついている。遠からず必ずや朽ち果ててしまうだろう。この体をそなたに与えようではないか。」

そこで王は刀を持ってこさせて、自らの太ももの肉をえぐり取りました。

「これをおまえに与えよう。」

そう告げる王に、鷹はさらに条件を付けました。

「王よ、その肉には満足だが、公正をきすために、その鳩と同じ目方でなくてはなりません。」

王は秤を持ってこさせると、鳩と自らの肉を天秤に掛けました。しかし意外にも、針は鳩の方に傾きました。そこで王はさらに眼ら脛の肉を切り取って秤にかけますが、それでもまだ足りません。それどころか不思議なことに、王の肉はますます軽くなり、鳩の体はますます重くなっていくのです。王は、自分の体すべてを秤にかけようと、血に濡れた手で秤にのぼろうとしました。しかし肉もなく筋も断たれた体のこと、身を支えることができず、息も絶え絶えに秤に倒れ込んでしまいました。

これを見たインドラは感嘆して言いました。

「このように試してみたが、王は全く我が身を惜しまなかった。まさにこの人こそ真の菩薩だ。」

それを聞いたヴィシュヴァカルマンは、インドラの神通力でシヴィ王を元の体に戻すよう懇願しましたが、インドラはこう言いました。

「私の力は必要ない。この王自ら

の誠の請願によって、体は元通りになるであろう。」

事実、シヴィ王の体は元通りになり、天も人も皆これを見て歓喜しました。そしてこれを見届け、真実の菩薩を見出した二人の天人は、天上へと帰っていきました。

……

このお話は、『ジャータカ』という、古代インドの仏教説話集にあります。これは菩薩行の中で、崇高、かつ、もっとも困難なものとされる捨身（他の人あるいは生き物を救うためにみずからの生命をなげうつこと）について説かれています。類例としては、両眼を布施する話や、『金光明経』の飢えたトラに身を投げ出して、無上の涅槃を求めた捨身飼虎の話などがあります。現代においては、臓器移植の際のドナー（臓器提供者）に相通ずるものがあるように思います。なかなか出来るものではありません。

では、凡人にも出来る布施はないものだろうかと探していましたら……、ありました。

山本周五郎の短編小説『寒椿』の一節に、

「――女の髪化粧というものは世の中の飾りといってもいいくらいで、うす汚ない饐えたような裏店でも、きれいに髪化粧をした女がとおれば眼のだのしみになる、……いっときその饐えたような裏店が華やいでみえる、……つまり春になって花が咲くように、世の中の飾りの一つになるんだ、……化粧をするならそのくらいの気持ちでするがいい、おまえのは自分本位で、そういう気持ちはなおさなければいけない。」

と、あります。これは、父親「伊兵衛」が、早くに母親を亡くした娘「お孝」に、化粧をするときの心構えについて言い聞かせている件です。

一時期流行った「ガン黒」・「厚底靴」・「茶髪」、最近では、けばけばしい「ネイルアート」、さらには、ブランド志向のファッション等、どれもが「伊兵衛」が指摘する自分本位の化粧や着飾りで、傍からは見苦しいものです。

化粧や着飾り、和顔愛語といった、気遣いや立ち振る舞いが、布施の仏道修行と考えれば、仏教が随分身近なものになるのではないでしょうか。それは、「粋」にも通じるものだと思います。

◎工事状況報告

六月八日に、ネットと足場がとれました。かなりユニークな建物なので、通っていかれる人が、みな、仰ぎ見ていかれます。

遅れがちであった工事ですが、ここにきて急ピッチで進み始めました。しかし、内装工事と山門工事が残っていますので、まだしばらくはかかりそうです。

雑記

▼プリンター

中古ですけれど、本誌を印刷するプリンターを購入いたしました。これまでのものは、印刷スピードが遅いのと、印刷コストが高いということで、思い切って切り替えました。

中古の場合、定価の1／4以下というのが魅力なのですが、当たりはずれがあって、導入にはかなり勇気がいります。しかし、今回の場合、当たりであったようで、ほっとしています。

▼浄蓮の滝

五月の末、熱田門中（寺院組合のようなもの）で、伊豆方面へ研修に行って参りました。隔年毎に行われ、前回は法務のため出席できませんでしたので、四年ぶりに、浄蓮の滝の澄んだ流れで、命の洗濯をさせていただきました。

途中訪れた寺で、山間（やまあい）から聞こえてくるウグイスの鳴き声に聞き惚れていましたら、旅慣れた方から、あれはテープの音だと聞かされて、……ガックリ。

▼玉葱の旨し日や世界蹴球（ワールドカップ）　沐魚